

今、求められる 心理臨床家の姿

2011. 3月6日(日) 14:00—16:45

場 所：神奈川大学 横浜キャンパス 16号館 セレストホール

対 象：臨床心理学および

(東急東横線 白楽駅より徒歩13分)

近接領域の専門家、大学院生

定員 450名 事前申し込み不要

主催：神奈川大学大学院 人間科学研究科臨床心理学研究領域

共催：神奈川大学心理相談センター、神奈川大学人文学研究所

第1部 14:00—15:00

開会の挨拶 和氣洋美 (人間科学研究科委員長)

基調講演 「心理臨床家のあり方」 馬場禮子 (山梨英和大学大学院教授)

第2部 15:15—16:45

シンポジウム 「今、求められる心理臨床家の姿」

我が国の産業社会の構造改革や教育界のいじめ等を中心とする厳しい状況の中で、クライアントは悩んでいる。このような厳しい状況と関わりつつ一人一人が自己成長していくプロセスを、臨床心理学や心理臨床家はどのように援助していけるのだろうか。この課題は、クライアントも心理臨床家にとっても大同小異であるとすれば、時代の困難さと、その一方で求められている様々なニーズの中で、心理臨床家はどのように在ればよいのだろうか。

司会：下田節夫、古屋喜美代 指定討論者：馬場禮子 シンポジスト：新田泰生、瀬戸正弘、杉山 崇

閉会の挨拶 新田泰生 (心理相談センター所長)

馬場禮子 山梨英和大学大学院教授。医学博士、臨床心理士。日本臨床心理士資格認定協会常任理事。臨床心理学、精神分析学。『精神分析的人格理論—心理療法を始める前に』(岩崎学術出版社)、『精神力動論—ロールシャッハ解釈と自我心理学の統合』(共著、金子書房)、『臨床心理士のための子育て支援基礎講座』(共著、創元社)

新田泰生 神奈川大学教授。心理相談センター所長。臨床心理士。産業臨床心理学、人間性心理学、質的研究法、グループ・フォーカシング。『産業臨床心理学における物語論の視点から見たワークライフバランス』(神奈川大学心理相談センター紀要 心理相談研究 1,5-16. 神奈川大学)

瀬戸正弘 神奈川大学教授。博士(人間科学)、臨床心理士。行動臨床心理学、認知行動療法。『からだところの健康科学』(共著、溪水社)

下田節夫 神奈川大学教授。臨床心理士。心理療法、グループ・アプローチ。『パーソンセンタード・エンカウンターグループ』(共著、ナカニシヤ出版)

古屋喜美代 神奈川大学教授。臨床心理士。臨床発達心理学。『学級と学童保育で行う特別支援教育』(共著、金子書房)

杉山 崇 神奈川大学准教授。臨床心理士。統合・折衷的心理療法、認知行動療法、臨床人格発達心理学。『臨床に活かす基礎心理学』(共編著、東京大学出版会)

神奈川大学心理相談センター

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 Tel/Fax 045-481-2723

【臨床指導相談員】 新田泰生 瀬戸正弘 下田節夫 古屋喜美代 杉山 崇
【スーパーバイザー・相談員】 植木田潤 小野京子 上河扶紀枝 北村麻紀子 高橋寛子 高橋美枝 大迫久美恵 大島郁葉 戸塚由美子 (全て臨床心理士)

KU 神奈川大学

